

ジュエリー文化史研究会からのお知らせ-41-

2013.11.7

◎博物館情報

さとうあけみさんより

一週間ほどパリに滞在し、先月 9 日に東京に戻りました。

露木先生がご興味を示していらっしゃるパリのケ.ブランリ博物館
<musee du quai Branly>に行ってきました。

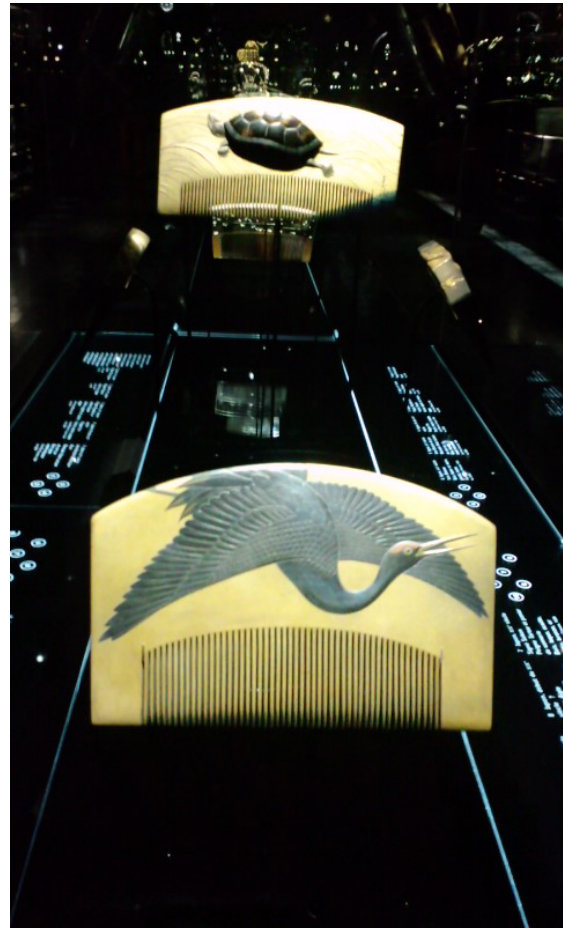
ご存知のように西洋以外の各国の生活文化の歴史を物語る物品を陳列しています。
とても興味深く 1-2 時間を過ごす予定が 4-5 時間があったという間に過ぎてしまいました。
特にジュエリーは世界各国の歴史と共にあることをあらためて認識することができました。

見過ごしてしまいそうな陳列棚の中に特筆すべきものを発見しました。
日本で言う江戸時代のものであるエチオピアのジュエリーの中に、
今私たちが研究中的<簪>によくある<耳かき>がついているものが陳列されていました。
沢山のペンダントに耳かきがついているのです！ 15 点くらいはあったと思います。

はたして日本の簪の耳かきはエチオピアから伝わったものなのか、
またはたんなる偶然なのか思いがめぐりました。
シルクロードを伝わって来たとしたらその途中の国々にもあると思いますが、
このようなものは他にはありませんでした。
何とも私の知識ではなにもわからないのですが、おなじ博物館に行くにもこのようなもの
に目が留まったり疑問を持つことができ、考えをめぐらすことができるのはこの研究会の
おかげだと思いありがたく思った次第です。
この<耳かき>を露木先生がどのようにお考えになるかお聞きするのが楽しみです。
又パリの装飾博物館ではちょうどジュエリーを陳列中で出品中の昔の師匠に 20 数年ぶり
にお会いしコンテンポラリージュエリーにも触れることができ短期間に多くの収穫がありました。



耳かき付きジュエリー



櫛

ジュエリー文化史研究会

<http://www.j-bunka.jp/>

※このメールアドレス(j-bunka@jj-craft.com)には返信できません。

※返信の必要のある方は、以下のアドレスにメールを送ってください。

日本宝飾クラフト学院 info@jj-craft.com

幹事戸倉博之 spina@precious-chroma.com